



# みらいつうしん

## 6月号

2023年6月1日  
 田園調布学園大学  
 みらいこども園  
 園長 勝浦芳子



### 褒めるということ

紫陽花が美しく咲く季節となりました。子ども達も、園生活に大分慣れ、表情や行動が豊かになってきました。朝の正門の出迎えでは、「園長先生おはよう！」と元気に挨拶するお子さんが増え、少しずつ心を開いてくれるようになったのかな？と、嬉しく思うと同時に毎日の積み重ねの大切さを痛感しています。6月は、梅雨入りしますと、毎日じめじめする日が続き、園庭での遊びが少なくなりますので、「お庭に行きたいよー」「好きな遊びが出来ないよー」と不満やイライラ感が生れ易くなり、子ども達の心も曇り空に…。少しでも、雨の日は、子ども達が晴れやかな気持ちで室内遊びができるよう、安全で楽しい環境づくりの工夫をしていきたいと思ひます。

さて、進級、入園から2か月が経ち、それぞれの好きなことや居場所を見つけ始めている姿が見られます。一見落ち着いたかのように感じられますが、この時期の子ども達の心も、紫陽花の花が、繊細に色代わりするかの如く、急に甘えたり、駄々をこねたりして、「自分の気持ちを理解してくれる人？」「大切に対応してくれる人かな？」と、周囲の大人の何気ない行動や言葉かけによって、心が揺れ動きます。また、友達の間でも、遊んでいる時に自分の気持ちをうまく表現できず、けんかやイライラが生じることも増えてきて、ケガなどに繋がることもあります。

園生活の中での遊びは、楽しさだけではなく、人との関わり方やルール、規範意識も学びますが、習得するにはまだまだ時間がかかります。園での様子は、なるべく丁寧に保護者の方に伝えられるよう努力しておりますが、職員の言葉が不十分で、帰宅したお子さんの様子がいつもと違うと感じた時、保護者の方は、きっと不信感を持たれることと思ひます。お互いの信頼関係は、一朝一夕にはできるものではありませんが、子どもを大切に思ふ気持ちは、皆一緒だと思ひますので、お子さんだけではなく、保護者の方々にも安心していただけるよう信頼関係の構築に努めていきたいと思ひます。

人は、褒められるといい気分になりやる気が出ます。褒めるということは、相手を尊重することにつながります。4月に施行された「子ども基本法」の基本理念の頭にも「すべての子どもは、個人として尊重されなければならない」とあります。お子さんの頑張った姿や出来た姿に、「すごいね」「おおまる」と認めてあげることが、次へのステップに上がるきっかけになるはずです。職員も、ただ褒めるだけではなく、できたことの達成感を感じることから次への挑戦目標が芽生えるような言葉かけや環境設定を考えて常にお子さんの成長を見守っています。どうぞ、ご家庭でも、褒めることを忘れずに、お子さんの一番の理解者でいてください。紫陽花の花言葉には、「強い絆で結ばれる」という意味もありますので、職員一同、お子さんや保護者の方との「強い絆」を結んでいきたいと思ひます。今後も、ご理解ご協力をお願いいたします。雨の多い蒸し暑い日が続きますと、何かと体調を崩しやすくなりますので、お身体には十分ご自愛ください。



台車でお絵描き！



ジューンベリーの木の下で



あっ！これ、おいしそう

